



Reason

インストールマニュアル

propellerhead

日本語マニュアル製作：内藤大輔

本書に記載されている事柄は将来予告なしに変更することがあります。またPropellerhead Software ABは本書に記載されている事柄について約束するものではありません。

このマニュアルで説明されているソフトウェアは、ソフトウェア使用許諾書によって許可されていることを除き、いかなるメディア（記録媒体）にも複製することが禁じられています。

Propellerhead Software ABの事前の書面による許諾なしに、本書の内容の一部またはすべてを、いかなる目的でも複写、複製、転載、送信、記録することは禁じられています。

©2014 Propellerhead Software and its licensors. すべての仕様は予告なく変更することがあります。Reason, Reason EssentialsとRack ExtensionはPropellerhead Softwareの登録商標です。

その他の製品名は、各社の商標および登録商標です。All rights reserved.

目次

イントロダクション 7

ようこそ！ 8

REASON のドキュメントについて 8

必要となるシステム 8

REASON パッケージ版に含まれるもの 8

REASON インストール DVD 8

製品のオーソライズ 8

REASON ダウンロード版 9

以前の REASON バージョンからアップグレードした場合 9

パッケージ版が届くまでの REASON ダウンロード版の使用 9

インストール 11

必要条件 12

Mac OS X 12

Windows 12

オーディオハードウェアについて 12

Mac OS X とオーディオハードウェア 12

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合 12

Macintosh 内蔵オーディオハードウェアを使用する場合 13

Macintosh で他のオーディオハードウェアを使用する場合 13

Windows とオーディオハードウェア 13

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合 13

Windows PC で他のオーディオハードウェアを使用する場合 13

MIDI インターフェースについて 14

MIDI 入力接続 14

MIDI 出力接続 14

ソフトウェアのインストール 15

以前の REASON バージョンからのアップグレード 15

インストールの実行 15

Mac OS X の Sound Bank について (DVD 版のみ) 15

オーソライゼーションシステム 16

REASON の登録とオーソライゼーション 16

- コンピューターのオーソライズ解除 17
- REASON をオーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアで使用する 18
- REASON をインターネット認証で使用する 18
- REASON をデモモードで使用する 19
- 64ビット OS での REASON と ReWire の使用 20
 - Mac 20
 - Windows 20

セットアップ 21

本章について 22

最初の起動時 -REASON セットアップウィザード 22

環境設定について 24

- オーディオハードウェアのセットアップ 25
 - Mac OS X 26
 - Windows 26
 - レイテンシーとその他オーディオ設定について 26

MIDI コントロールサーフェスのセットアップ 27

- コントロールサーフェスの追加 28
 - お持ちのコントロールサーフェスがメニューにない場合 29
 - マスターキーボードについて 30
 - マスターキーボード入力 30
 - その他の機能 30

デフォルトソングの設定 32

- 起動時に最後に開いたソングを開く 32

Mac OS X ファンクションキーの再アサイン 33

第 1 章

イントロダクション

ようこそ！

REASON をお選びいただきありがとうございます。

REASON バージョン 8 では作業をスピードアップするためのワークフローの改善に焦点を当てたことにより、いっそうスピーディーな作業が可能になりました。新しいブラウザは常に開いておくことができるため、ライブラリー、ソング、サウンド、サンプル、そしてインストゥルメントにいつでもアクセスできます。REASON プログラム内でのドラッグ&ドロップも可能になりました。これによりシンセパッチをシーケンサーにドラッグしてインストゥルメントを作成したり、Redrum チャンネルに直接サンプルを落とし、エフェクトパッチをラックヘドラッグしてエフェクトを挿入することなどができます。さらに REASON バージョン 8 には新たに Softube 社のアンプとスピーカーモデルが付属しています。REASON バージョン 8.1 には新しい "Drop to Propellerhead" 機能が追加されました。これにより、制作した楽曲をご自身の Propellerhead アカウントにアップロードし共有できます。

また、Propellerhead ウェブサイト (www.propellerheads.se) にアクセスして、弊社およびサードパーティーのデベロッパーが作った Rack Extension インストゥルメントやエフェクトをラックに追加できることをお忘れなく。

我々にとって、弊社製品を自らの表現の手段として活用している世界中の人々とのコミュニケーションこそが、開発の原動力となっています。弊社スタッフと出会う場所の一つが弊社のユーザーフォーラムです。このフォーラムはプロフェッショナルからビギナーまで平等に、音楽制作に関するアイデア交換を行える場所となっています。さらに重要なのは、このフォーラムがあなたにも開かれているということです！我々がお客様とのコミュニケーションを楽しみにしているように、世界中の REASON ユーザーの方々とのコミュニケーションがきっと皆様のお役に立つことでしょう。

敬具

Propellerhead スタッフ一同
www.propellerheads.se

REASON のドキュメントについて

本書はインストゥルマニュアルであり、REASON のインストールと基本的な設定手順を解説します。REASON の機能や操作手順の詳細についてはオペレーションマニュアル PDF ファイルをお読みください。これと他の PDF ドキュメントはプログラムとともにインストールされています - REASON アプリケーションフォルダー内の "Documentation" フォルダーにあります。オペレーションマニュアルでは REASON のデバイスとコマンドについて詳細に解説しています。

必要となるシステム

REASON は Mac OS X でも Windows (詳しくは p. 12 「必要条件」をご参照ください) でも使用することができ、インストール用ディスクも両プラットフォームに対応しています。マニュアル内においても特に指定がない限り、両プラットフォーム共通の内容になります。

REASON パッケージ版に含まれるもの

パッケージ版 REASON をご購入いただいた場合、以下のものが含まれています：

REASON インストール DVD

この DVD には REASON アプリケーション、ヘルプシステム、デモソング、そしてドキュメントを含む、REASON プログラムインストーラーが入っています。

製品のオーソライズ

インストールに必要なライセンスナンバーとレジストレーションコードは DVD のスリーブに記載されています。レジストレーションコードは、あなたの Propellerhead ユーザーアカウントに REASON のライセンスを登録する際に必要となります。アカウントに REASON を登録した後は必要ありません。

！ 注：REASON を Propellerhead ウェブショップからご購入いただいた場合は既にアカウントに登録されています。

REASON ダウンロード版

REASON のダウンロード版には製品コンテンツがすべて含まれています。つまりパッケージ版をご購入いただく必要はありません。プログラムインストーラーをダウンロードしてインストールした後は、製品を登録、オーソライズするだけでご使用いただけます。登録とオーソライズについて詳しくは p. 16 「REASON の登録とオーソライゼーション」と p. 18 「REASON をインターネット認証で使用する」をご参照ください。

以前の REASON バージョンからアップグレードした場合

！ 以前のバージョンの REASON からアップグレードする場合、新バージョンをインストールする前に知っておくべきことがいくつかあります。詳しくは p. 15 「以前の REASON バージョンからのアップグレード」をご参照ください。

REASON 6 以降（もしくは Propellerhead Record）からアップグレードする場合、Ignition Key をご所有の場合はこれをオーソライズすることができます。さらにご使用のコンピューターをオーソライズすることも選択できます。REASON アップグレードをダウンロードし、ファイルを解凍してインストールを終えたら、p. 16 「REASON の登録とオーソライゼーション」の記述に従って REASON をオーソライズしてください。

パッケージ版が届くまでの REASON ダウンロード版の使用

パッケージ版の REASON をご購入後、製品が手元に届くまでの間は、ダウンロード版をフル機能で使用することができます。詳しくは p. 16 「REASON の登録とオーソライゼーション」と p. 18 「REASON をインターネット認証で使用する」をご参照ください。

これが初めてのオーディオ録音 / 音楽制作ソフトウェアである場合は、さらに p. 12 「オーディオハードウェアについて」と p. 14 「MIDI インターフェースについて」セクションをお読みになると良いでしょう。

！ REASON パッケージが届いても、パッケージ内のインストーラーを使わないでください。必要なファイルはすべてダウンロード版によってインストールされています。

第 2 章 インストール

必要条件

REASON を使用するには最低限で以下のシステムが必要です：

！ これは最低限のシステムですので、ご注意ください。多くの RAM を搭載した高速のコンピューターでは、より多くのデバイスを同時に使用できます。

Mac OS X

- ・ デュアルコア以上の Intel Mac
- ・ 4GB 以上の RAM
- ・ DVD ドライブ
- ・ 3 GB のハードディスク空き領域（最大で 20GB 程度のスクラッチディスク領域を使用することがあります）
- ・ Mac OS X 10.7 以上
- ・ 1280x768 ピクセル以上のディスプレイ
- ・ CoreAudio 対応のオーディオインターフェース（Propellerhead Balance など）または内蔵オーディオ機能
- ・ Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合は空き USB2.0 ポート
- ・ インターネット接続（製品登録と Rack Extension のインストールに使用）
- ・ MIDI インターフェースと MIDI キーボード推奨

Windows

- ・ デュアルコア以上の Intel Pentium 4/AMD Opteron
- ・ 4GB 以上の RAM
- ・ DVD ドライブ
- ・ 3 GB のハードディスク空き領域（最大で 20GB 程度のスクラッチディスク領域を使用することがあります）
- ・ Windows 7 以上
- ・ 1280x768 ピクセル以上のディスプレイ
- ・ ASIO ドライバー対応オーディオインターフェース（Propellerhead Balance など）
- ・ Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合は空き USB2.0 ポート
- ・ インターネット接続（製品登録と Rack Extension のインストールに使用）
- ・ MIDI インターフェースと MIDI キーボード推奨

オーディオハードウェアについて

オーディオハードウェアとは、楽器やマイクなどからのアナログ信号を REASON が使用 / 保存できるデジタル信号に変換し、さらにアナログ信号に再変換（アンプ、ヘッドフォンなどに送信するため）するコンピューター周辺機器のことです。内蔵オーディオカードや 2 チャンネル USB/Firewire オーディオインターフェース（Propellerhead Balance など）から、マルチ入出力やデジタル端子などを装備したオーディオカードまで様々なタイプがあります。どのタイプを使用するにも、ハードウェアとドライバーが正しくインストールされている必要があります。

Mac OS X とオーディオハードウェア

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合

インストール、接続、使用方法などは「Propellerhead Balance Operation Manual.pdf」をご参照ください。

！ Balance をインストール / 接続する前に、必ず Propellerhead ウェブサイトで最新の Balance ドライバーをご入手ください。

Macintosh 内蔵オーディオハードウェアを使用する場合

すべての Mac 機種には内蔵オーディオインターフェースが備わっており、ステレオ入出力端子（場合によっては内蔵マイクロフォン入力も）が使用できます。REASON の使用用途によっては内蔵入出力のクオリティーでも十分な場合もあります。

REASON の環境設定>オーディオ設定には既にいくつかの入力 + 出力の組み合わせが準備されています。

Macintosh で他のオーディオハードウェアを使用する場合

他のオーディオハードウェア（例：マルチ出力、デジタル端子付き等）で REASON を使用することもできます。このためにはオーディオハードウェアが MacOS X に対応している必要があります。つまり CoreAudio 用のドライバーのあるハードウェアが必要です。

1. **オーディオハードウェアドライバーを、付属するマニュアルの記述に従ってインストールしてください。**
一部のオーディオハードウェアは特別なオーディオドライバーを必要としません。詳しくはハードウェアのマニュアルをご参照ください。
2. **オーディオハードウェアのステレオ出力を再生機器（スピーカー、ミキサー、ヘッドフォン他）に接続します。**
マルチ出力（つまりステレオ以上）の使用方法についてはオペレーションマニュアルをご参照ください。本書では標準のステレオ接続についてのみ解説します。
3. **可能であればオーディオハードウェアで、再生の確認をします。**
オーディオハードウェアによっては、このためのテストアプリケーションが付属していることもあります。

Windows とオーディオハードウェア

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合

インストール、接続、使用方法など「Propellerhead Balance Operation Manual.pdf」をご参照ください。

Windows PC で他のオーディオハードウェアを使用する場合

！ Windows 環境の REASON でオーディオ入出力をフルに活用するにはオーディオハードウェアの ASIO ドライバーの使用が必須です。

REASON は Direct X や MME ドライバーでも使用できますが、これらではオーディオ出力のみの対応だけでなく、ASIO ドライバーと比較して高いレイテンシーになってしまいます。

1. **オーディオハードウェアの最新 ASIO ドライバーを使用していることをご確認ください。**
最新バージョンについてはハードウェアメーカーのウェブサイトをご確認ください。
2. **オーディオハードウェアドライバーは、付属するマニュアルの記述に従ってインストールしてください。**
3. **オーディオハードウェアのステレオ出力を再生用の機器（スピーカー、ミキサー、ヘッドフォン等）に接続します。**
マルチ出力（ステレオ出力以上）の用法についてはオペレーションマニュアルをご参照ください。本書では標準のステレオ接続についてのみ解説します。
4. **可能であればオーディオハードウェアで、再生の確認をします。**
ASIO ドライバーを使用するオーディオハードウェアではテストアプリケーションが必要になります（多くの場合はハードウェアに付属しています）。

MIDI インターフェースについて

REASON を外部 MIDI コントローラーなしで使用することも可能ですが（“オンスクリーンピアノキー”で演奏、またはシーケンサーに手書きでノートやオートメーションを書き込む）、これではプログラムのポテンシャルを最大限に引き出せません。下述では MIDI インターフェースと外部 MIDI コントローラー（MIDI インターフェース機能内蔵の USB キーボード、MIDI インターフェースに接続した MIDI キーボードなど）を使用していることを前提に解説します。

- キーボードコントローラー、または MIDI インターフェースとドライバーをインストールする際はこれらのマニュアルの記述に従ってください。
- 1 入力のみ MIDI インターフェースでも使用可能ですが、複数入力を装備したインターフェースがより便利です。
REASON パラメーターを複数の MIDI コントロールサーフェスで制御する場合や、REASON を外部のスタンドアロンシーケンサーやドラムマシンなどと併用して使う場合などでは特にそうです。
- USB 経由で接続した MIDI インターフェースの中にはドライバーのインストールが不要ものがあります。この場合インターフェースを接続するだけで準備 OK です。
- それ以外のより高機能な MIDI インターフェース（もしくは複数入力のような高度な機能を持つ製品）の場合、ドライバーのインストールが必要です。
詳しくはインターフェースに付属するドキュメントをご参照ください。

MIDI 入力接続

- USB ケーブルを使ってキーボードをコンピューターに接続します。

または

- MIDI キーボード（またはその他の MIDI コントローラー）の MIDI 出力端子と、MIDI インターフェースの MIDI 入力端子を MIDI ケーブルで接続します。
これだけで外部の MIDI キーボードを使って REASON でノートやコントローラーを演奏 / レコーディングできます。
- USB キーボードをご使用でない場合は、MIDI インターフェースの MIDI 出力端子と MIDI キーボードの MIDI 入力端子も接続します。
これは絶対に必要と言う訳ではありません。ただしこれにより REASON を初めて起動した時に現れる REASON セットアップウィザード（p. 22 「最初の起動時 - REASON セットアップウィザード」参照）や環境設定のデバイス自動検出時（p. 28 「コントロールサーフェスの追加」参照）に双方向コミュニケーションが可能になります。自動検出への対応 / 非対応は MIDI キーボードの機種によります。

! もし複数の MIDI コントロールサーフェスを使用する場合は、それぞれ別々の MIDI ポートに接続するか、USB で直接コンピューターに接続する方法を推奨します。

MIDI 出力接続

外部のシンセサイザー、ドラムマシン、その他の MIDI 演奏が可能なデバイスをお持ちの場合、これらを REASON からコントロールできます。このためには MIDI インターフェースが必要です。

- MIDI インターフェースの MIDI Out 端子と外部デバイスの MIDI In 端子を MIDI ケーブルで接続します。
REASON から外部 MIDI デバイスをコントロールする方法について、詳しくは REASON オペレーションマニュアル PDF、または REASON プログラム内のヘルプをご参照ください。

ソフトウェアのインストール

以前の REASON バージョンからのアップグレード

以前の REASON バージョンからアップグレードする場合、新バージョンにアップグレードする前に知っておくべきことがいくつかあります：

! 現在の REASON バージョンをアンインストールして新バージョンをインストールする前に、残しておきたいファイル等を REASON フォルダーから取り出してください。アップグレードをインストールする際に、REASON プログラムフォルダーと中に含まれているすべてのファイルは永久的に消去されます。

例えばアップグレードを実行する前に、追加した ReFill などを一時的に別のディレクトリに「避難」させておくことで、これらが消去されることを防げます。

インストールの実行

では REASON ソフトウェア本体をインストールしましょう：

→ REASON のディスクを DVD ドライブに挿入するか、ダウンロードしたファイルを解凍するか (Windows)、ディスクイメージをマウントします (Mac OS X)。次の手順は Mac と Windows コンピューターによって異なります。

Windows :

1. "Install REASON.exe" というファイルをダブルクリックします。
システム設定によっては自動的にインストーラーが起動することもあります。
 - 64 ビットの Windows OS では、64 ビットバージョンの REASON がインストールされます。
 - 32 ビットの Windows OS では、32 ビットバージョンの REASON がインストールされます。
- ! 64 ビットの Windows OS で、32 ビットの ReWire アプリケーションと REASON を使用する場合は、32 ビットバージョンの REASON をインストールする必要があります。詳しくは p.20 「64 ビット OS での REASON と ReWire の使用」をご参照ください。

2. 表示される指示に従ってインストールを進めます。
インストールが始まる前に、言語とインストール場所の選択とデスクトップにプログラムへのショートカットを作成するオプションが提示されます。インストールが完了すると REASON をすぐに起動するオプションが表示されます。

Mac OS X :

- Mac では "REASON" というフォルダーをハードディスク内の "アプリケーション" フォルダーにドラッグするだけです。
アプリケーションには 32 と 64 ビットの両バージョンが含まれています。OS に合わせて自動的に 32 ビットまたは 64 ビットモードで起動します。
REASON を 32 ビットの ReWire アプリケーションと使用する場合は 32 ビットバージョンの REASON を使用する必要があります。詳しくは p.20 「64 ビット OS での REASON と ReWire の使用」をご参照ください。

プラットフォーム共通：

- インストール中には CodeMeter と Authorizer アプリケーションもコンピューターにインストールされます。
これらのアプリケーションは REASON のオーソライゼーション (下記参照) と、Rack Extension デバイスの管理に必要です。

Mac OS X の Sound Bank について (DVD 版のみ)

Mac OS X で初めて REASON を起動する際には、ハードディスクに Factory Sound Bank と Orkester サウンドバンクをコピーするために REASON ディスクを挿入するよう促されます。Factory Sound Bank と Orkester は、多数のバッチ、サンプル、ループを収めたふたつの大きなファイルで、主なるサウンド源として機能し、シンセサイザーの内蔵 ROM のようなものです。

これらプログラムの使用に必要なファイルがハードディスクにコピーされます。

オーソライゼーションシステム

REASON は可能な限り柔軟性を考慮しつつ、優れたコピー保護が可能なオーソライゼーションシステムを採用しています。次のように機能します：

- **オーソライゼーションシステムの核は、Propellerhead ウェブサイトでご自身のユーザーアカウントに登録したライセンスナンバーです。**
- **このライセンスで特定の 1 台のコンピューター、1 本の Ignition Key (任意) と 1 台の Propellerhead Balance オーディオインターフェース (Ignition Key 内蔵) をオーソライズできます。**もしコンピューターをオーソライズした場合、このコンピューターに Ignition Key を接続する必要はありません。REASON は起動時にコンピューターがオーソライズされていることを自動的に認識します。
さらに任意で Ignition Key ハードウェア (USB スティック) または Propellerhead Balance オーディオインターフェースをオーソライズできます。これらを接続することで、どのコンピューターでも REASON をオーソライズモードで使用できます。
- **手元にオーソライズされたコンピューターと Ignition Key ハードウェアがなくても、インターネット接続さえあれば REASON をオーソライズモードで使用できます。**プログラムは Propellerhead ウェブサイトに接続し、REASON がユーザーアカウントに登録されていることを確認します。
- **最後にオーソライズされたコンピューター、Ignition Key ハードウェア、インターネット接続のどれもない場合はデモモードで REASON を使用できます。**
このモードはプログラムの購入前に試すために使うモードでもあります。このモードではソングの保存を含め、通常通り作業を行えます。ただデモモードではソングを開くことはできません (詳しくは p. 19 「REASON をデモモードで使用する」を参照ください)。

REASON の登録とオーソライゼーション

REASON をオーソライズモードで使用するには、プログラムをご自身の Propellerhead ウェブサイトのアカウントに登録する必要があります (p. 18 「REASON をオーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアで使用する」と p. 18 「REASON をインターネット認証で使用する」参照)

- !** REASON を Propellerhead ウェブサイトから直接ご購入した場合、REASON のライセンスは既にユーザーアカウントに登録されており、コンピューターをオーソライズするか、インターネット認証を使って REASON を使用できます。

もしオプションの Ignition Key (USB スティック) をご購入された場合は、これもオーソライズできます (以下参照)。

次のように REASON を登録、オーソライズします：

！ 注：次の手順を行うにはインターネット接続が必要です。

1. REASON を起動します。

初めて REASON を起動すると次のウィンドウが表示されます：



2. “アカウントページへ行く” ボタンをクリックします。

デフォルトのウェブブラウザが起動し、Propellerhead ウェブサイトのログインページを開きます。

3. ユーザー名とパスワードを入力して Propellerhead アカウントへログインします。

アカウントをお持ちでない場合は “Create account” リンクをクリックし、指示に従って新しいアカウントを作成します。

4. 次の手順は状況によって異なります：

パッケージ版 REASON をご購入された方で登録がお済みでない場合は、登録を促されます：

→ REASONパッケージのDVDスリーブにあるライセンスナンバーとレジストレーションコードを入力し、

[Register] ボタンをクリックします。

新しいウェブページが開き、コンピューター、または Ignition Key ハードウェアにライセンスを今書き込むか、後で実行するか選択します。[Later] (後で) ボタンをクリックしても、インターネット認証を使って REASON を使用できます (p. 18 「REASON をインターネット認証で使用する」参照)。

REASON の登録ができたなら、次の手順でライセンスをコンピューターまたは Ignition Key に書き込みます：

→ [Authorize] (オーソライズ) ボタンをクリックします。

“Authorize Computer and Keys” ページが開きます。このページでコンピューター、Ignition Key、または接続された Balance インターフェイスに REASON ライセンスを書き込みます。

5. ウェブページの記述に従い、コンピューターまたは Ignition Key にライセンスを書き込みます。

6. 操作を終えると REASON は起動し、オーソライズモードでの使用ができます。

ウェブブラウザは閉じて大丈夫です。

コンピューターのオーソライズ解除

オーソライズできるコンピューターは1度に1台です。他のコンピューターに作業を移す場合、まず現在ご使用のコンピューターのオーソライズを解除してから、他のコンピューターをオーソライズできません。この作業は Propellerhead ウェブサイトのお客様のアカウントページから行います。

！ コンピューターを修理に出したり、売却する前には、必ずオーソライズを解除してください。

REASON をオーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアで使用する

オーソライズされたコンピューターまたは Ignition Key ハードウェア (Propellerhead USB スティックまたは Propellerhead Balance オーディオインターフェース) を接続して REASON を起動すると、それ以上の操作なしにプログラムを使えます。

- Ignition Key を使用する場合、コンピューターと REASON を起動する前に Ignition Key ハードウェアを接続してください。これにより REASON はオーソライゼーション操作なしに起動します。

オーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアが接続されているコンピューターでは、REASON 使用時にインターネットへ接続する必要はありません。

REASON をインターネット認証で使用する

オーソライズされていないコンピューター、または Ignition Key ハードウェアなしで REASON を起動すると、次のウィンドウが現れます：



- ! 注：これにはインターネット接続が必要です (p. 16 「REASON の登録とオーソライゼーション」の記述通り、REASON ライセンスがユーザーアカウントに登録済みであることが前提になります)。
- ➔ ご自身の Propellerhead アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、ログインボタンを押します。REASON はオーソライズモードで起動します。
- ! 同じユーザーアカウントでオーソライズされた複数の REASON を複数のコンピューター上で同時に使用することはできません。この場合、REASON はデモモードに切り替わります (p. 19 「REASON をデモモードで使用する」)。

REASON をデモモードで使用する

REASON ライセンスを持っていない、コンピューターがオーソライズされていない、または Ignition Key ハードウェアがなく、かつインターネット接続が使用できない場合、REASON をデモモードで使用できません：

1. **REASON を起動します。**
次のウィンドウが現れます：



2. **"デモモード" ボタンをクリックします。**

REASON はデモモードで起動します。
シーケンサーのトランスポートパネル右側の "Demo Mode" インジケーターが点灯します。



REASON をデモモードで使用する場合、次の3つの例外を除き、オーソライズモードと同じ操作を行えます：

- オーディオのエクスポート、Propellerhead へのファイルのアップロード (Drop to Propellerhead)、ミキサーチャンネルのディスクへのバウンスはできません。
- Rack Extension デバイスは使用できません。
- ソングを開けません。
デモモードで開けるソングはデモソングのみ (拡張子 ".rsndemo" (REASON デモソング)、".reedemo" (Reason Essentials デモソング)、と ".recdemo" (RECORD デモソング)) です。デモソングは "ファイル" メニューの "デモソングを開く" で開けます。

オーソライズされていないコンピューターで REASON を使用している際に、Ignition Key ハードウェアを取り外すか、インターネット認証モードで使用中にインターネット接続が切断された場合、プログラムは自動的にデモモードに切り替わります。この場合でも通常通り作業を続けられる上、ソングの保存も可能です。Ignition Key ハードウェアを再接続するか、インターネット接続が回復すると REASON は自動的にオーソライズモードに戻り、デモモードインジケーターは消えます。

64 ビット OS での REASON と ReWire の使用

64 ビットの OS をご使用の場合、REASON は自動的に 64 ビットバージョンをインストールし、64 ビットモードで動作します。しかし ReWire を使っている場合、いくつか考慮すべき点があります：

- ・ ReWire ホストと REASON は同じモード (32 または 64 ビット) で動作しなければなりません。
- ・ ReWire を 64 ビットで使用するには、ReWire ホストアプリケーションが 64 ビット ReWire に対応している必要があります。もし未対応の場合は、両方とも 32 ビットモードで使用しなければなりません。

Mac と Windows 環境でそれぞれ REASON を 32 ビットモードで使用するには、次のように行います：

Mac

1. REASON が起動していないことをご確認ください。
2. Finder にて REASON アプリケーションを選択し、ファイルメニューから “情報を見る” を選択します。
3. “32 ビットモードで開く” オプションをオンにします。
次回から REASON は 32 ビットモードで起動します。

Windows

Windows では、REASON の 32 ビットバージョンをインストールする必要があります：

1. REASON DVD (またはダウンロードした REASON インストーラーパッケージ) を Windows Explorer で開きます。
2. “Install Reason.exe” ファイルを右クリックし、ショートカットを作成します。
ファイルが DVD にある場合、ショートカットをデスクトップに作成するか促されますので、そのとおり作成します。
3. 作成したショートカットを右クリックし、“プロパティ” を選択します。
4. プロパティダイアログの “ショートカット” ページのターゲット欄の末尾に “/32” (“” なし) を入力します。
これによりターゲット欄は次のようになります：“D:\Install Reason.exe” /32
ただしご使用のシステム構成によってはドライブ文字が “D” でないこともあります。
5. [OK] をクリックします。
6. ショートカットをダブルクリックすると、32 ビットバージョンの REASON をインストールできます。
インストールされた REASON バージョンの名前は、スタートメニューとデスクトップで “Reason (32)” と表示されます。同時に通常の 64 ビットバージョンをインストールしておくことも可能です。

第 3 章

セットアップ

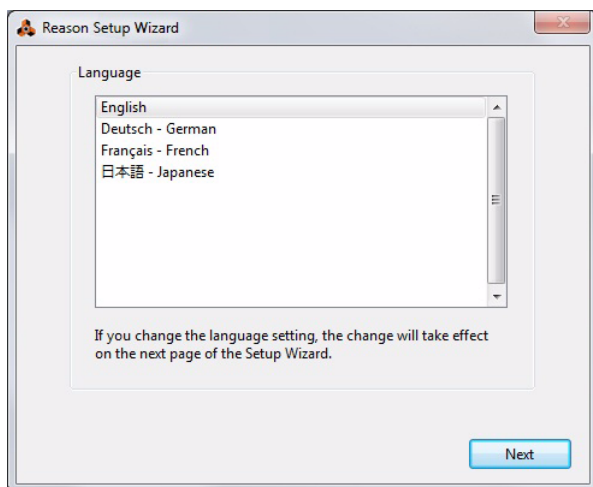
本章について

本章は REASON を使い始める前に行うセットアップについて解説します。セットアップは音の入出力を行うため、さらに MIDI で REASON をコントロールするために必要な作業です。

最初の起動時 -REASON セットアップウィザード

前章の説明通り正しくインストールが終了すると REASON は起動します。まず最初に REASON セットアップウィザードが表示されます。

セットアップウィザードはインストール後、最初の起動時にのみ現れます。



- ! 表示言語の選択ページは Windows 環境でのみ表示されます。Mac OS X ではシステムの言語が使用されます。
- ! セットアップウィザードで設定した内容は、後から環境設定ダイアログでいつでも変更することが可能です。
- [次へ] をクリックするといくつかのダイアログが順番に表示され、次の操作を行います：
 - ・ セットアップウィザードはまず最初に互換性のあるオーディオドライバーを検出します。一番最初に検出された互換性のあるドライバーが自動的に選択されます。選択されたドライバーが希望するものであれば、そのまま問題ありません。もし違う場合はオーディオ出力ポップアップメニューから希望のオーディオドライバーを選択してください。どのドライバーを使えば良いのかわからない場合は、p.25 「オーディオハードウェアのセットアップ」をご参照ください。
 - ・ 次に REASON はマスター MIDI キーボードを自動検出します。検出された MIDI キーボードを使う場合は [設定する] をクリックして次に進んでください。
- ! REASON にデバイスを自動検知させるには双方向の MIDI コミュニケーションが必要です! ただし USB ではなく、MIDI 入力もないキーボードデバイスでも手動で追加できます。
- ! 最近の USB キーボードであっても、REASON が検知できない機種もあります。これらでも自動検出されたキーボードと同様に REASON をコントロールすることができます。

- ・ REASON が接続されているキーボードを検出できない場合、もしくは [設定しない] をクリックした場合は、マスターキーボードを手動で指定するよう促されます。最初に "メーカー" を、次に "モデル" を選択します。お使いのキーボードの機種がリストにない場合は "Other" を選択します。
- さらに使用する MIDI ポートを指定します。これはポップアップメニューから手動で選択するか、[検出 ...] ボタンをクリックしてから MIDI キーボード (コントローラー) のキーを押します。
- もし他の MIDI キーボードやコントロールサーフェスを追加する場合は環境設定ダイアログで設定を行います。詳しくは p. 28 「コントロールサーフェスの追加」をご参照ください。セットアップウィザードは現在接続されている MIDI マスターキーボードデバイスだけを設定します。

セットアップは以上です！

ここまで問題なく進むとオーディオと MIDI の接続 (オーディオの再生や REASON を MIDI で制御するために必要な基本設定) は完了です！

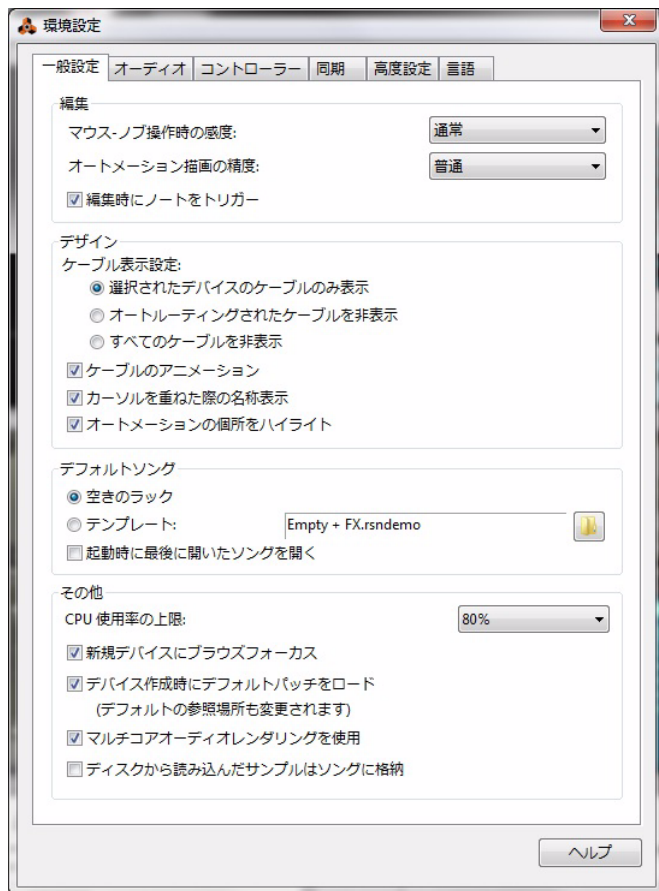
もしなんらかの理由によって、セットアップウィザードに必要なセッティングがうまくいかなかった場合、もしくは他のデバイスを追加したい場合は、環境設定ダイアログで設定を行う必要があります (下記参照)。

- 開きたいソングを選択、さらに Propellerhead ウェブサイトの **Getting Started Tutorial** を見るか選択します。

セットアップウィザードの最終ページではデモソング、テンプレートドキュメント、または空のソングを開くか選択できます。また Propellerhead ウェブサイトの Getting Started ビデオチュートリアルを見るオプションもあります。

環境設定について

オーディオや MIDI に関する基本的な設定は環境設定ダイアログで行います。環境設定ダイアログは "編集" メニュー (Mac OS X の場合は "REASON" メニュー) から開きます。



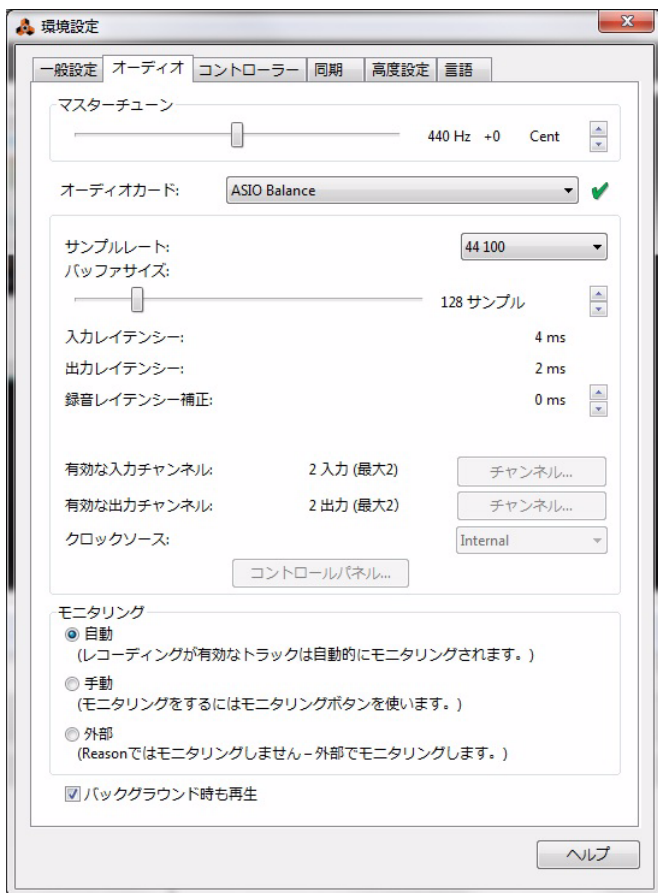
環境設定ダイアログ

- ▶ 本書では最も重要な項目のみ解説します。他の項目についてはオペレーションマニュアルの「メニュー / ダイアログレファレンス」の章をご参照ください。

オーディオハードウェアのセットアップ

セットアップウィザードでの設定がうまくできなかった場合は、手で REASON とオーディオハードウェアの接続に関する設定を行う必要があります。これにはオーディオドライバ（プログラムとオーディオハードウェアをつなぐためのソフトウェア）を選択します：

1. 環境設定ダイアログで "オーディオ" タブをクリックします。



2. "オーディオカード" ポップアップメニューからドライバを選択します。
使用しているプラットフォームとオーディオハードウェアによって選択するドライバは異なります。オプションがあなたのセットアップで適用不可の場合、ダイアログ上で無効表示されます。

Mac OS X

- 使用したいハードウェアに相当するオプションを選びます（内蔵オーディオまたはインストール済みのオーディオハードウェアなど）。
- ← オーディオカードポップアップにはいくつかの内蔵入出力の組み合わせがプリセットとして準備されています。
この際、使用できる入力 + 出力の組み合わせの数は、ご使用のコンピューターのハードウェア構成によって異なります。

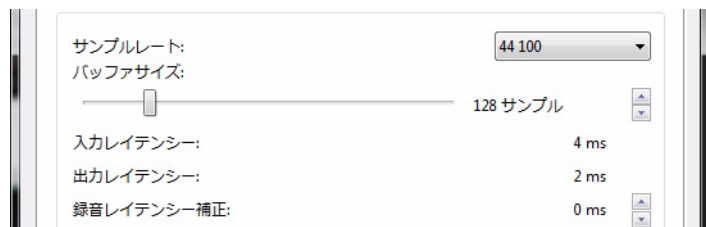
Windows

! Windows 環境で REASON を使用するには ASIO 対応のオーディオハードウェアが必要です。ASIO 対応でないと録音ができません。

- 希望する ASIO ハードウェアに相当するオプションを選択します。
ご使用のオーディオハードウェア専用の ASIO ドライバーがある場合は、それを選択します。
専用 ASIO ドライバーを使用することによって、REASON とオーディオカードはダイレクトにコミュニケーションできます。これにより低オーディオレイテンシーやマルチ入出力が実現します。

レイテンシーとその他オーディオ設定について

"オーディオ" タブにはサウンドカードに関する追加設定項目があります。もっとも重要な箇所は "バッファサイズ" と入力 / 出力レイテンシーの表示です。



入力レイテンシーとはマイクロフォンやインストゥルメントからオーディオが「発信」された時点から、REASON で受信されるまでの遅れを指します。出力レイテンシーとは再生時に REASON が信号を「送信」してから、その音が耳に届くまでの遅れを指します。オーディオシステムのレイテンシーはご使用のオーディオハードウェア、それを制御するドライバー、そして設定によって変化します。

ドライバーを選択すると自動的にオーディオカードからレイテンシーの値が報告され、環境設定の "オーディオ" タブに表示されます。オーディオハードウェアとドライバーによってはこの値を調整できます。レイテンシーが大きい場合は設定を調整する必要があります。

- 可能であれば、バッファサイズスライダーを使用してレイテンシー値を下げます。
使用できる最低バッファサイズ値は、オーディオドライバーとコンピューターのスペックによって異なります。再生中にクリックやグリッチノイズが発生する場合、バッファサイズが低すぎます。問題なく再生できるまでバッファサイズを上げてください。
- バッファサイズスライダーが無効になっている場合は、オーディオハードウェアのコントロールパネルでバッファサイズを下げることもできます - [コントロールパネル] ボタンをクリックして開けます。

詳細はオペレーションマニュアルをご参照ください。

MIDI コントロールサーフェスのセットアップ

REASON では MIDI キーボードやリモートコントロールデバイスのことをコントロールサーフェス（コントロールラー）と呼びます。コントロールサーフェスからの MIDI 入力には Remote と呼ばれるシステムによって処理されます。主な特徴は以下のとおりです：

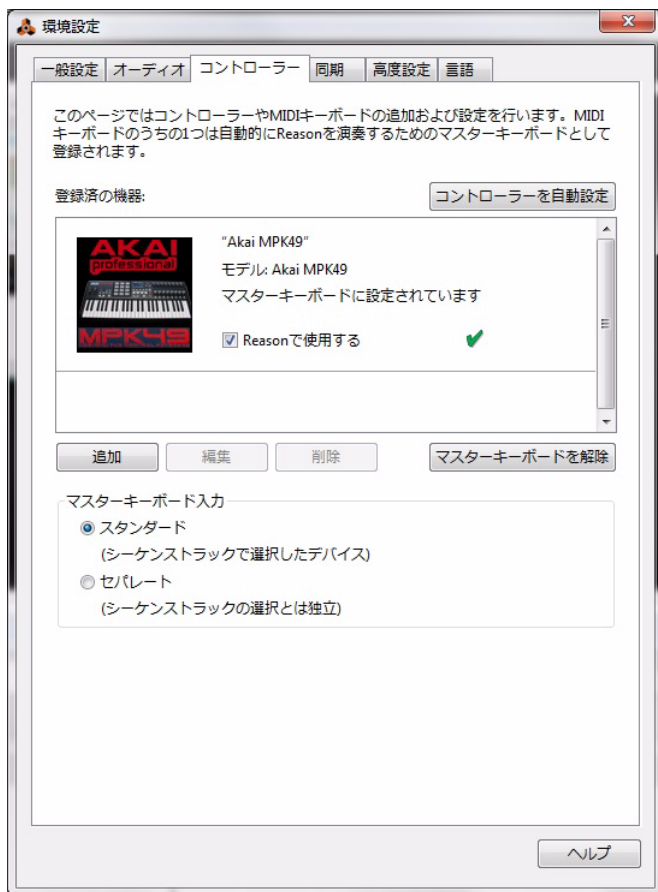
- **同時に多数のコントロールサーフェスを使用できます。**
- **多数のコントロールサーフェスに対応しています - コントローラーに搭載されたツマミ、フェーダー、ボタンは自動的に REASON デバイスの一番頻繁に使用されるパラメーターにアサインされます。**
コントロールサーフェスの設定をデバイスごとに変える必要はありません - MIDI 入力を ID 8 トラックから Combinator トラックに変えたとしてもコントロールサーフェスが自動的に対応します。コントロールサーフェスを REASON で一度だけ設定すれば、後は REASON が処理します。
- **現在ネイティブ対応していないコントロールサーフェスには、汎用ドライバーを使用できます。**
もちろん他のコントロールサーフェスの Remote ドライバーは今後もアップデートされます - 詳しくは Web ページにて。
- **デフォルトでは全てのコントローラーはシーケンサーの MIDI 入力に追従します。**
つまり MIDI 入力をシーケンサートラックにアサインすると、コントロールサーフェスも同じトラックのデバイスにルーティングされます。
- **コントロールサーフェスを任意のデバイスにロック（専用設定）することができます。**
例えば MIDI 入力に追従するマスターキーボードとミキサー操作用にロックされたコントロールサーフェス、というように使い分けることができます。こうすることによって常にレベルやパンを制御することができます。これに関してはオペレーションマニュアルに説明があります。
- **リモートオーバーライド機能によりコントロールサーフェスの特定のコントローラーを、任意の REASON パラメーターや機能にアサインすることができます。**
例えば特定のツマミ、またはフェーダーをミキサーのマスターレベルフェーダーにアサインしたり、コントロールサーフェスのボタン類を REASON のトランスポート（再生、停止、録音、他）にアサインすることにより、MIDI 入力のトラックアサインとは関係なく常にこれらの操作を制御することができます。これに関してはオペレーションマニュアルに説明があります。
- **Remote はさらに一部の MIDI フィードバック機能付コントロールサーフェスに対応しています。**
REASON に対応しているこれらのコントロールサーフェスをお持ちであれば、モーターフェーダー、メーター、ディスプレイなどフル活用できます。

REASON のドキュメントに「Control Surface Details.pdf（コントロールサーフェス詳細）」があります。このドキュメントには対応済みのコントロールサーフェスに関する便利な情報が記載されています。

セットアップウィザードにおいてマスターキーボードを特定し、それ以外にコントロールサーフェスを使用しないのであれば、これ以上の操作を行う必要はありません。コントロールサーフェスを新しく追加したい、もしくは設定を編集したい時などは環境設定で行います。

コントロールサーフェスの追加

1. 環境設定ダイアログを開き "コントローラー" タブを選択します。
2. コントロールサーフェスが USB 経由 (または双方向 MIDI 接続) で接続されている場合、[コントローラーを自動設定] ボタンを押します。
REASON は全ての MIDI ポートをスキャンし、接続されているコントロールサーフェスの検知を試みます。全てのコントロールサーフェスが自動検知に対応しているわけではないのでご注意ください。



"登録済の機器" リストに検知されたコントロールサーフェスが列挙されます。

3. 手でコントロールサーフェスを追加するには [追加] ボタンを押します。
新しいダイアログが開きます。
4. "メーカー" ポップアップメニューから追加するコントローラーのメーカーを選択します。
メニューにメーカー名がない場合は以下をご参照ください。

- "モデル" ポップアップメニューから追加するコントローラーの機種を選択します。
メニューに機種名がない場合は下記をご参照ください。
- 選択されたコントロールサーフェスの画像が表示され、機種によっては関連事項も表示されます - 関連事項をよくお読みください。
機種によっては REASON で使用するために特定のプリセットを選択する必要があります - それに関連する情報はここに表示されます。

- "MIDI 入力" ポップアップメニューからコントロールサーフェスが接続された入力ポートを選択します。
入力ポートが定かではない場合、[検出] ボタンをクリックし、コントロールサーフェスのコントロールに触れるか、キーボードを演奏すると自動的に正しい入力ポートが選択されます。
・ **コントロールサーフェスの機種によっては複数の "MIDI 入力" ポップアップメニューがあるものもあります。**
この場合、全ての MIDI 入力ポップアップメニューに入力ポートをアサインする必要があります。
・ **コントロールサーフェスの機種によっては "MIDI 出力" ポップアップメニューがあるものもあります。**
これに "オプション" と表示されている場合に限りポートを選択する必要はありません。しかし、その他の場合は MIDI 出力をアサインする必要があります。モーターフェーダー、ディスプレイなどの MIDI フィードバック機能が装備されているコントロールサーフェスを使用する場合に該当します。
- "名前" 欄にてコントロールサーフェスに好きな名称を付けることができます。
- [OK] をクリックし、コントロールサーフェスを追加します。
これに "オプション" と表示されている場合に限りポートを選択する必要はありません。しかし、その他の場合は MIDI 出力をアサインする必要があります。モーターフェーダー、ディスプレイなどの MIDI フィードバック機能が装備されているコントロールサーフェスを使用する場合に該当します。

"コントローラー" タブに戻り、追加したコントロールサーフェスがリストに表示されます。

お持ちのコントロールサーフェスがメニューにない場合

お持ちのコントロールサーフェスが "メーカー" または "モデル" ポップアップメニューに無い場合は、REASON の Remote にネイティブ対応していないことを意味します。これに当てはまるコントロールサーフェスは、汎用コントローラーとしてプログラムに対応しています。設定手順は以下の通りです：

- "メーカー" ポップアップメニューから "Other" を選択し、"モデル" で3つの選択枠から適当なものを選びます。

また、メーカー名はあるが機種のみリストにない場合は：

- "モデル" で3つの "Other" の選択枠から適当なものを選びます。

どちらの場合も、以下から選択します：

- **MIDI Control Keyboard**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなど装備されている MIDI キーボードをお持ちの場合、これを選択します。コントロールする REASON デバイスに対して正しい MIDI CC メッセージを送信するように MIDI コントロールキーボードを設定する必要があります - REASON の「MIDI Implementation Chart」ドキュメントをご参照ください。コントロールサーフェスに REASON デバイス用のテンプレートやプリセットが用意されている場合は、これらを使用することもできます。
- **MIDI Control Surface**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなど装備されているが鍵盤はない MIDI コントローラーをご使用の場合はこれを選択します。このオプションでもコントロールサーフェスが正しい MIDI CC メッセージを送信するように設定が必要です。
- **MIDI Keyboard (No Controls)**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなどは付いていない MIDI キーボードをお持ちの場合、これを選択します。演奏のみに使用されます (ピッチベンド、モジュレーションホイールなどのパフォーマンスコントローラーも含む) - このタイプのコントロールサーフェスでは REASON デバイスのパラメーターをコントロールすることはできません。
- **MIDI Multichannel Control Keyboard/Surface**
これらのオプションは、複数の MIDI チャンネルを同時に処理できる MIDI キーボードやコントロールサーフェスをご使用の場合に選択できます。

機種を選択したら前述のように MIDI 入力を選択します。

マスターキーボードについて

コントロールサーフェスの内、ひとつはマスターキーボードとして指定できます。マスターキーボードには鍵盤が付いている必要があり、特定の REASON デバイスにロックできません (つまり必ずシーケンサートラックの MIDI 入力に追従します)。このコントロールサーフェスを使って REASON のインストールデバイスを実演します。

- **最初に追加された鍵盤付きのコントロールサーフェス (または自動検出されたもの) が自動的にマスターキーボードに指定されます。**
この設定内容は環境設定の "登録済の機器" リストに表示されます。
- **別のコントロールサーフェスをマスターキーボードに指定するには、それをまずリストから選択し、[マスターキーボードに設定] ボタンをクリックします。**
マスターキーボードは一台のみ指定できます。
- **マスターキーボードを全く指定しない場合は、マスターキーボードに指定されているコントロールサーフェスをリストから選択し、同じボタンをクリックします (この場合、ボタンは [マスターキーボードを解除] に変わります)。**

マスターキーボード入力

これでマスターキーボード入力のモードを設定します。

- **スタンダード**
マスターキーボード入力は、トラックで選択したデバイスに自動的にアサインされます。
- **セパレート**
マスターキーボード入力をトラックの選択から独立させます。マスターキーボード入力はトラックリストのデバイスアイコンをクリックして選択します。他のトラックを選択 (トラック名をクリック、またはトラックリストをクリック) しても、マスターキーボード入力は移動しません。

その他の機能

- **コントロールサーフェスの設定内容を編集するには、リストからそのコントロールサーフェスをダブルクリックします (または選択し、[編集] をクリックします)。**
必要に応じて名称と MIDI ポート設定を変えることができます。

- コントロールサーフェスを削除するにはリストから選択し、"削除"をクリックします。
- "REASON で使用する" チェックボックスを無効にすることで、コントロールサーフェスを「切る」ことができます。
この機能はコンピューターに接続されたコントロールサーフェスを他のアプリケーションでのみ使用したい場合などに便利です。
- ・ 環境設定の中には "同期" ページもあります。
このページは外部からのコントロールと MIDI クロック同期の設定になり、操作のための MIDI コントロールは全て "コントローラー" タブにて設定します。

デフォルトソングの設定

"ファイル"メニューから"新規"を選択した際に、「テンプレート」として自動的に開くデフォルトソングを指定することができます。デフォルトソングは以前に作成したソングや、付属のテンプレートソングから選択できます。デフォルトソングの指定は環境設定ダイアログの"一般設定"タブで行います。

1. "編集"メニュー (Win) または "REASON" メニュー (Mac) から "環境設定" を選択し、"一般設定" タブをクリックします。



2. "デフォルトソング" セクションで "テンプレート" ラジオボタンをクリックします。
3. 右側のフォルダーアイコンをクリックし、新規ソングのテンプレートとして使用する REASON ソングを選択します。

新しいソングを作成するたび ("ファイル"メニューから"新規"を選択)、選択したソングが読み込まれ、新しいソングのテンプレートとなります。新規ソングの名前は Windows 環境では "Document n" ("n" は番号)、Mac OS X では "untitled n" ("n" は番号) になります。ソングを保存する際に名前を変えられます。

起動時に最後に開いたソングを開く

REASON を起動するたびに、前回最後に開いていたソングを自動的に開くよう設定できます。設定は環境設定ダイアログの"一般設定"タブで行います。

1. "編集"メニュー (Win) または "REASON" メニュー (Mac) から "環境設定" を選択し、"一般設定" タブをクリックします。



2. "起動時に最後に開いたソングを開く" オプションにチェックを入れます。次回 REASON を起動したとき、最後に保存されたソングが自動的に開きます。

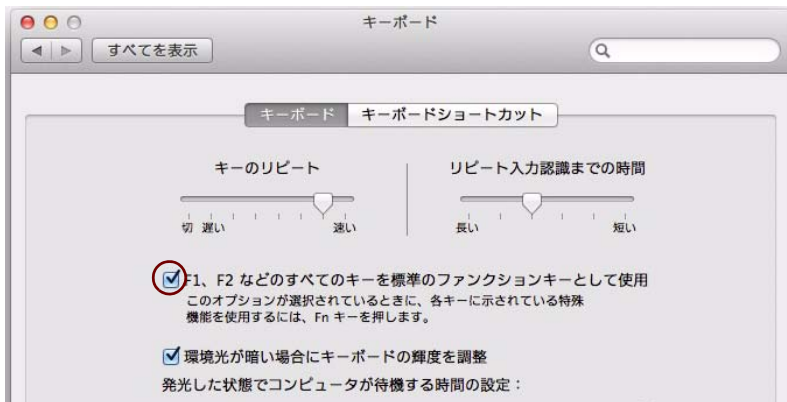
Mac OS X ファンクションキーの再アサイン

REASON で作業を行う際、3つのメインエリア（メインミキサー、ラック、シーケンサー）の間を頻繁に行き来します。これらを切り替える最も早い方法はファンクションキー F5、F6、F7 を使用する方法です（オペレーションマニュアルの「共通の操作と概念」の章の「エリア間のナビゲーション」参照）。また F2、F3、F4 と F8 キーはそれぞれスペクトラム EQ、ブラウザ、オンスクリーンピアノキーとツールウィンドウ表示 / 非表示に使用します。

ただし多くの Macintosh 機種（特に MacBook）では、これらファンクションキーはハードウェアコントロールボタンとしても機能します。例えば内蔵スピーカーのボリューム、画面の明るさ、キーボードのバックライトなどを制御します。REASON などのアプリケーションでこれらのファンクションキーを使用するには "Fn" キーを押しながら操作する必要があります。

これでも操作は問題なく行えますが、REASON での作業をより円滑にするためにも設定を変更することをお奨めします（F5 は「F5」コマンドに、ハードウェア操作は Fn を押さえるように入れ替える）。以下のように行います：

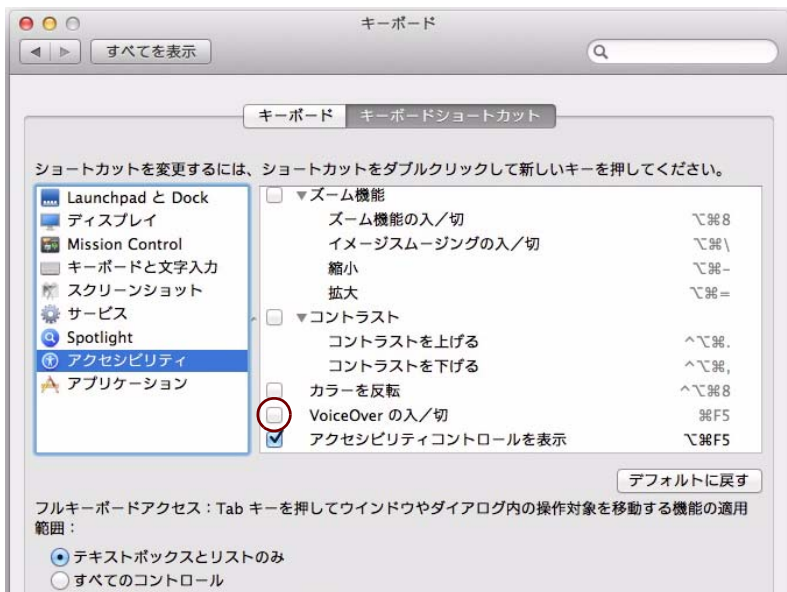
1. **Mac OS X のシステム環境設定を開き、" キーボード " を選択します。**
" キーボード " 設定が表示されます。
2. **" キーボード " タブを選択し、" F1、F2 などのすべてのキーを標準のファンクションキーとして使用 " オプションにチェックを入れます。**
これで F2-F8 を使って REASON の機能を制御できます。ボリュームや画面の明るさ調整などのハードウェアコントロール機能を使用するには、"Fn" キーを押しながらファンクションキーを押します。



ファンクションキーの中には Mac OS X キーボードショートカットにアサインされているものもあり、これらは REASON などのソフトウェアより優先されます。これも簡単に変更できます：

3. **" キーボード " ウィンドウの " キーボードショートカット " タブをクリックします。**
キーボードショートカット環境設定ウィンドウにはシステム機能にアサインされたキーボードショートカットのリストが表示されます。例えば [Cmd]-[F5] は VoiceOver 機能の使用 / 停止にアサインされていますが、これはメインミキサーを個別のウィンドウに切り離すためのショートカットでもありません。

4. "VoiceOver 機能の使用 / 停止" アイテムにスクロールし、チェックを外すか、他のキーボードショートカットをアサインします。



5. これで設定は完了です。"キーボードとマウス" ウィンドウを閉じます。
以後、ファンクションキーとキーボードショートカットは REASON で正しく機能します。